



JSPS ボン研究連絡センター 2013年度第4四半期活動報告 (2014年1月～3月)

< 目次 >

1 2014年1月～3月の主な活動	…p 1
(1) 第10回日独学術コロキウム“Frontiers of Laser Science”を開催	
(2) “Study Japan! Fair”に参加	
2 2014年4月以降の主な行事予定	…p 4
3 センター長雑感	…p 4

1 2013年1月～3月の主な活動

(1) 第10回日独学術コロキウム “Frontiers of Laser Science” を開催

ハイデルベルク大学(Universität Heidelberg)において、1月15-17日の3日間にわたり、第10回日独学術コロキウム「レーザーサイエンス」(The 10th German-Japan Colloquium “Frontiers of Laser Science”)を、JSPS ボン研究連絡センターとハイデルベルク大学との共催により開催した。

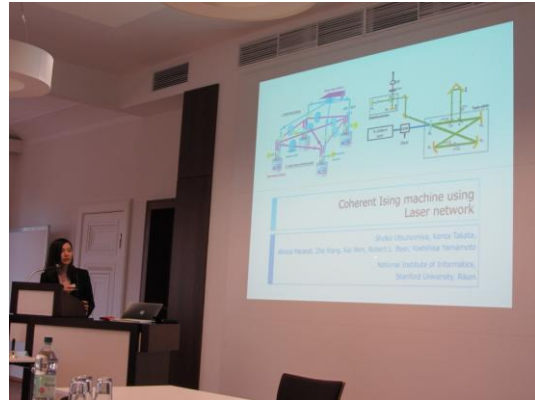
日独学術コロキウムは、毎年異なるテーマを設定し、ドイツ側機関とJSPS ボン研究連絡センターとの共催により開催している。今年度は“Laser Science”を研究テーマとして、ハイデルベルク大学の Prof. Dr. Matthias Weidemüller と分子科学研究所の大森賢治教授がコーディネーターとなり、若手研究者を含む日本側9人、ドイツ側9人の研究者が参加した。

初日に Max Planck Institute for Nuclear Physics を訪問し、施設見学と概要説明を含むスタディツアーに参加した。翌16日と17日に、ハイデルベルク大学の Internationales Wissenschaftsforum Heidelberg (国際学術フォーラム, IWH) において、研究発表と討論を行った。レーザーをテーマとして、量子力学から原子物理学、分子生物学、情報工学に至るまで、専門分野の異なる日独の研究者による発表と討論が活発に行われた。参加者からは、「研究の更なる可能性が広がり、大変貴重な機会となった」という感想や、「研究の上で大いに刺激を受けたので、今後の協力関係に期待したい」との意見が寄せられた。

コロキウムの最後にハイデルベルク大学の物理大講堂に移動し、「物理定例コロキウム」での大森賢治教授による公開講演を聴講した。物理定例コロキウムは、ハイデルベルク大学において物理学の分野で定期的実施される公開講演である。同大学の学生と教員が多数出席し、広い会場はほぼ満席で、大森教授による最先端の研究発表と活発な討論が行われた。



討論の様子



研究発表の様子

Max Planck Institute for Nuclear Physics
訪問の様子ハイデルベルク大学物理定例コロキウムにおける
大森教授の研究発表

(2) 早稲田大学主催の留学フェア「Study Japan! Fair 2014 in Berlin」に参加

日時: 2014年1月30日(木)

場所: ベルリン日独センター(ベルリン市)

昨年度に引き続き、早稲田大学によるグローバル30の活動の一環として、早稲田大学主催と在ドイツ日本国大使館の共催により、ベルリン南西のダーレム地区に位置するベルリン日独センターを会場として、「Study Japan! Fair 2014 in Berlin」が開催された。

当日は、同志社大学、北海道大学、慶応義塾大学、京都大学、九州大学、名古屋大学、立教大学、筑波大学、早稲田大学の9大学、および在ドイツ日本国大使館、ベルリン日独センター、ドイツ学術交流会(DAAD)、国際交流基金、日本貿易振興機構(JETRO)、JSPSボンセンターの6機関が情報ブースを出展した。参加した機関からは、留学や研究のための日本滞在について幅広い情報提供が行われた。

当センターからは、大川副センター長と徳野、高橋両国際協力員が参加し、ブースでの情報提供と高橋国際協力員による JSPS 事業概要の説明を行った。

この他、神戸大学、明治大学、新潟大学、大阪大学、立命館大学、上智大学、東京大学、東北大学、東京工業大学の9大学が資料の提供を行った。

開会式では早稲田大学内田勝一副総長・常任理事の開会挨拶の後、日本国大使館宮下孝之公使、DAAD の Karin Moeller 氏、ベルリン日独センター Friederike Bosse 氏の挨拶が行われた。続いて、ドイツ留学中の若手日本人音楽家による音楽演奏が行われた。

開会式の後、参加大学・機関の担当者等による概要説明と楽曲演奏による日本文化紹介が、同時並行で行われた。来場者は、情報ブースを訪れて情報収集と個別相談を行い、関心のある機関やプログラムに関する概要説明を聴講した。ドイツと日本の研究者等から若手研究者や学生に向けて、研究者としての体験を語るなどのリレー講演も行われた。

当日の来場者数は約 150 人で、高校生や学部生だけでなく、研究者や研究者志望の学生を含む幅広い層が参加した。留学や研究のための日本滞在について具体的な希望や計画を持った来場者が多く、当センターのブースを訪れた博士課程学生や博士号取得者にも、具体的な情報を提供することができた。

Study Japan! Fair 2014 in Berlin ウェブサイト: <http://www.study-japan-fair-eu.jp/>



JSPS ボン研究連絡センターのブース



JSPS 事業の概要説明



DAAD の概要説明の様子



日本の大学等の資料を展示

3 2013年4月以降の主な行事予定

- 5月8日(木) JSPS サマープログラムプレオリテーション(於ボン)
- 5月23日(金) 第19回日独学術シンポジウム「薬学」(於エアランゲン)
- ～24日(土)

4 センター長雑感

1年間活躍した二人の国際協力員、高橋・徳野組が帰国して、明日には新しく前小屋・中沢組を迎える。引き続き頑張ってくれている大川副センター長との昼食時の話題に、今期は「ウクライナ」と「STAP 細胞」があった。

この冬、ウクライナの学術振興機関 SFRR と JSPS との間で、懸案の二国間協定が締結された。その間に EU とロシアの綱引きが表面化して、急展開で周知のクリミア併合となった。苦悩の最も深いのが、東西統合後ロシアとの交流が深まってきたドイツであろう。ドイツのエネルギー源の多くはロシアに依存しているし、毎年ベルリンで開かれる大規模な留学メッセ「Study World」はロシア館で開かれる。せめて基礎学術交流は、こうした政治的対立を乗り越えて発展させたいものである。

Nature に STAP 細胞論文が受理されたとの理研発表は、ボン・センターのドイツ語サーキュラー Rundschreiben にも引用報告された。その後問題点が指摘され、3月14日の記者会見となった。まだ決着が着いていないこの手のニュースをドイツの研究者コミュニティに伝えるのは難しい。最初の理研発表では「リスクの大きな発展に繋がらう」と一種の畏れを感じ、そして若い研究者が仕留めたとすれば「非常に幸運な巡り合わせだ」という、科学者としての素朴な感慨を持った。調査結果が是・非いずれになろうと、現代の科学研究推進の在り方に大きな課題を突きつけていることに間違いはなからう。

(2014年3月31日)



ぼんぼん時計第43号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)